

2) 重要な種への保全措置

(1) 動物全般

重要な種への影響と保全の内容は、表 4.4.2.2-6 に示すとおりである。なお、重要な種への影響について検討した結果、哺乳類のコキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンテングコウモリ、鳥類のクマタカ、陸上昆虫類のツヅラセメクラチビゴミムシ、ヒゴツヤムネハネカクシ及びクモ類のイツキメナシナミハグモについては、事業による影響を詳細に検討する必要があると考えられたため、個別の影響及び保全措置の検討を行った。

これらについてはそれぞれ「(2)クマタカに対する保全措置」及び「4.4.2.5 九折瀬洞の生息環境」で後述する。

その他、事業により陸上の生息環境の一部が減少すると考えられる重要な種については、事業による影響及び一般的な種の生態特性や現地での確認状況から判断し、生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。

表 4.4.2.2-6(1) 動物の重要な種への影響予測と保全の内容

分類群	種名	影響の予測	保全の内容等
哺乳類 10種	カワネズミ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、他の調査で川辺川の上流域の五木地区でも生息が確認されており、本種は川辺川流域の湛水予定区域とその周辺区域外にも広く分布していると考えられる。	本地域に生息するカワネズミの生態に関しては知見が少ないため、今後も専門家による指導、助言のもとに生息状況について調査を継続していく。
	コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンテングコウモリ	「4.4.2.5 九折瀬洞の生息環境」で後述する。	「4.4.2.5 九折瀬洞の生息環境」で後述する。
	ホンドモモンガ	文献においてのみ記録がある。今後も生息状況について調査を継続していく。	現地調査において確認されていないが、生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」)をもって保全が図られる。
	ムササビ、ヤマネ、アナグマ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる森林が広域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
	カヤネズミ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域の上下流、特に下流には生息環境と考えられる河川敷が分布している。	事業区域の上下流や流入河川においては生息環境と考えられる河川敷が分布しており、これらの環境が保全されることにより、保全が図られる。

表 4.4.2.2-6(2) 動物の重要な種への影響予測と保全の内容

分類群	種名	影響の予測	保全の内容等
哺乳類 10種	イタチ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には人家が残存し、生息環境と考えられる森林が広域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
鳥類 14種	クマタカ	「(2)クマタカに対する保全措置」で後述する。	「(2)クマタカに対する保全措置」で後述する。
	ミサゴ、ハヤブサ	湛水予定区域とその周辺区域には定着していないと考えられ、事業による影響はないと考えられる。	保全対策は特に講じない。
	アカショウビン	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる森林に覆われた溪畔や溪谷などが分布している。	事業区域外には生育環境と考えられる森林に覆われた溪畔や溪谷などが分布しており、これらの環境が保全されることにより、保全が図られる。
	ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、アオバズク、フクロウ、ブッポウソウ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる森林が広域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
	コサメビタキ	文献においてのみ記録がある。今後も生息状況について調査を継続していく。	現地調査において確認されていないが、生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」)をもって保全が図られる。
爬虫類 2種	タカチホヘビ シロマダラ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる森林が広域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
陸上昆虫類等 14種	ツヅラセメクラチビゴミムシ、ヒゴツヤムネハネカクシ	「4.4.2.5 九折瀬洞の生息環境」で後述する。	「4.4.2.5 九折瀬洞の生息環境」で後述する。
	ツマグロキチョウ、ヒメヒラタゴミムシ、ババムナビロコメツキ、ムカシヤンマ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域の上下流や流入河川に生息環境と考えられる川原や溪流に注ぐ小川が分布している。	事業区域の上下流や流入河川においては生息環境と考えられる川原や溪流に注ぐ小川が分布しており、これらの環境が保全されることにより、保全が図られる。

	キンスジコガネ、エゾスジグロシロチョウ、ウラキンシジミ、ミスジチョウ、サカグチキドクガ、エサキクチキゴキブリ、オオムラサキ、ウラナミジャノメ	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる森林及び林縁付近の草地在域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
陸産 貝類	クチマガリスナガイ、テラマチベッコウ、ハナコギセル	事業により生息環境の一部が減少すると考えられるが、事業区域外には生息環境と考えられる石灰岩地や自然林などが広域に分布している。	生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」参照)をもって保全措置を図ることとする。
4種	マルクチコギセル	文献においてのみ記録がある。今後も生息状況について調査を継続していく。	現地調査において確認されていないが、生息・生育環境の保全(後述の「4.4.2.3 陸域の生息・生育環境」)をもって保全が図られる。

(2) クマタカに対する保全措置

① クマタカへの影響

地域に生息するクマタカの継続的な生存とつがいの繁殖活動の維持への、事業の実施による影響について、クマタカの生息環境の利用状況やつがいの行動圏から予測を行った。

調査区域内におけるクマタカの行動は、主に川辺川及び五木小川に流入する支川の谷、山腹斜面、尾根において観察されている。このうち尾根については、つがいの行動圏の境界のため出現頻度が高くなっている場合もあると考えられる。これら以外の支川の谷、山腹斜面については、クマタカの繁殖や採餌などに重要な生息環境であると考えられる。ダム事業による、湛水や付替道路などによる地形の改変や森林の伐採などは、主に川辺川本川や五木小川沿いであることから、これらの区域のクマタカの生息環境の利用に関しての影響は小さいと考えられる。

ダム事業による各つがいへの影響をみると、山口谷川と川辺川の合流点付近から宮目木川と川辺川の合流点付近にかけての本川への主要な流入支川の流域に生息する4つがい及び五木小川右岸側に生息する1つがいについては、ダムの湛水や付替道路などによる地形の改変がコアエリアや繁殖テリトリーの外縁部に及ぶことになるが、その範囲はわずかであるため、つがいに与える影響は小さいと考えられる。

残りの2つがいへの影響については、コアエリアや繁殖テリトリーを横断する形でダムの湛水や付替道路による地形の改変が行われるが、現時点でこのような場を生息環境としているいくつかの事例はあるものの、既存の知見では改変による影響を予測しがたいため、今後も生息状況について調査を継続していく。

② 保全措置

工事中においては、仮設備などによる一時的改変を極力抑制するとともに、騒音・振動の最小化を図る。施工計画の策定にあたっては、極力クマタカの繁殖活動に支障がないように配慮し、工事による影響

などについて継続的に調査していく。なお、影響が懸念される場合は、必要に応じて専門家の意見を聞きながら適切に対処する。

ダム供用後については、クマタカの生息のための森林の保全措置を講ずるなど、極力クマタカの生息環境の保全に努める。

なお、モニタリング体制を確立し、ダム供用後のクマタカの生息状況の確認及び保全措置の効果の評価などを行う。

保全措置の整理を図 4.4.2.1-1 に示す。

これらの保全措置については、今後とも専門家の意見を聞きつつ調査・検討し、「地域に生息するクマタカの継続的な生存とつがいの繁殖活動の維持」が図れるよう努める。

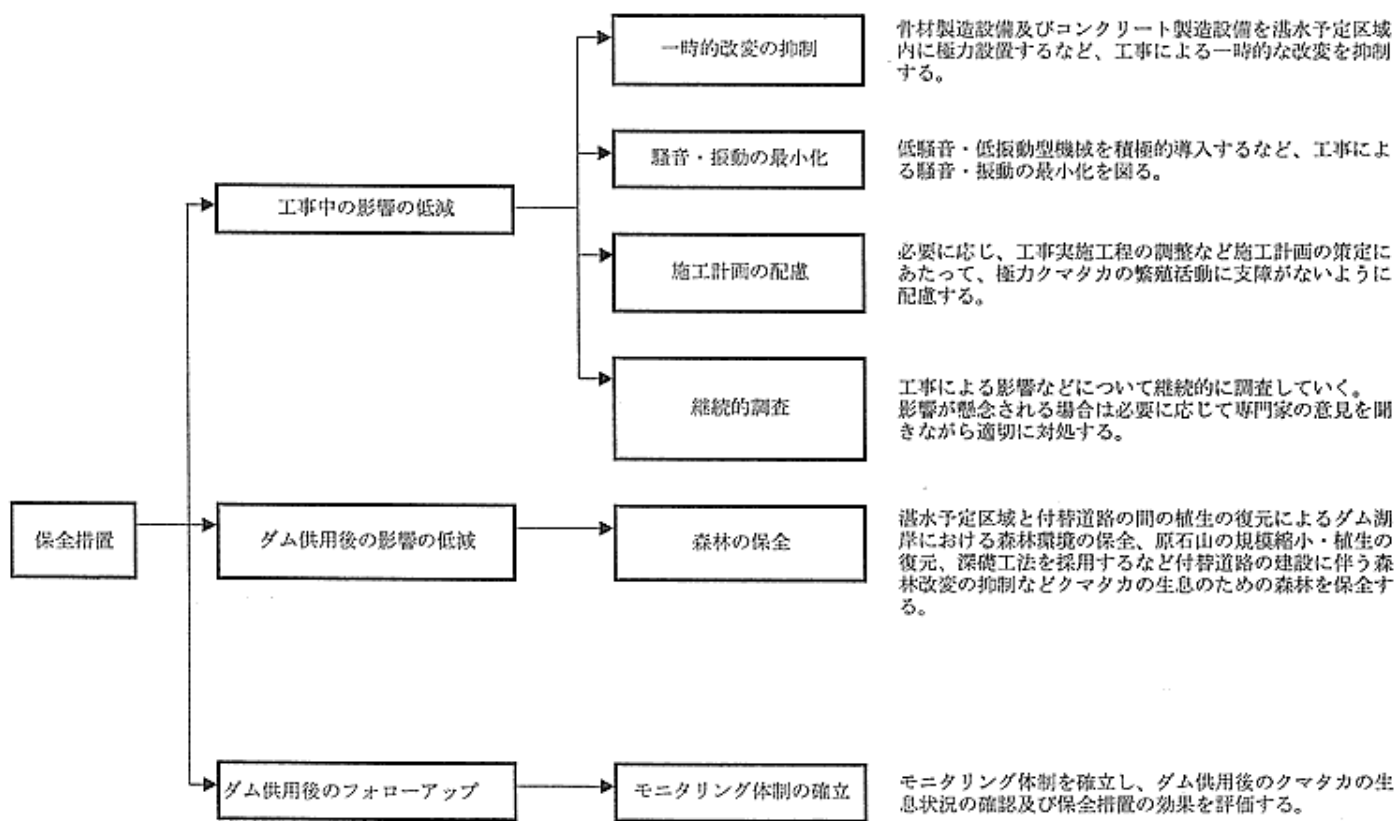


図 4.4.2.1-1 川辺川ダムにおける保全措置の整理